



その専門病院であります朝鮮労働党九一五連絡所で目撃した古川了子さん、学校で訓練装備を持って出入りしていた寺越武志さん、そして放送局爆破訓練場で見つかった一人の日本人の女性と、北朝鮮が一九八六年に死亡したと言っている田口八重子さんも一九九一年まで確実に生きていたという直接的な情報を持っており、すべて合わせて十五人以上です。  
私が目撃したり、または生きていたという直接的な情報を持っている十五人の拉致被害者のうちで、現在北朝鮮が認めているのは五人だけ、それからまた日本政府も田中さんを加えて六人しか拉致の事実を認めていないことは大変残念です。  
寺越武志さん、古川了子さん、加藤久美子さんは救わぬが拉致として認定していますが、日本政府はまだ拉致と認めないまま。  
北朝鮮でも母様が何名様もご越えに会ったにもかかわらず、日本政府はなほ彼を拉致だと認めないのが、古川了子さんと加藤久美子さんも明らかに北朝鮮にいる拉致被害者なのに、それとして認定されていないことが残念です。  
日本人拉致は、今、日本では北朝鮮の犯罪として認められていますが、少なくとも金正日政治軍事大学では作業員たちの自慢の種になっています。  
特に、寺越武志さんとおじさんたちを拉致した金正日政治軍事大学の航海講義の副議長、呉承鎬は、自分の口で、一九六〇年代、日本の艦登半島に侵入し、仕方なく彼らを拉致して、そのうち一人が自分たちの強盗のような要求に応じなかったとして、その場でおじさんの一人を射殺したという内容まで自慢げに話していたことが記憶に生々しいです。  
実際、私自身も証言するために艦登半島の現地を訪問したことがありますが、そこは本当に呉承鎬副議長が話したこと一致する場所でした。  
作業員が自分がない拉致をしてい話すわけありませんが、現場も一致することから、私は呉承鎬教官の話が間違いでないことを確信しております。  
これら拉致された日本人は、学校で海外作業員たちの日本人教育に利用される日本語教育として勤務しており、彼らの居住地も、当時はほかの十号洞と呼ぶ場所地区内の統制施設でした。  
北朝鮮労働党情報機関である三号庁舎は、彼ら拉致された日本人たちを外部に公開せず秘密に付するため、彼らの子供たちは幼稚園に通うときまで統制施設内部から通わせ、初等教育を受け始めるまでから父母と遠く離れたほかの地域の学校に通わせ、休みの期間に父母と一緒にいるときには、彼らに言葉に慎重になるよう強調することもありました。  
結局、長い間、北朝鮮の日本人拉致が全く存在しない事実として外部に公開されず、拉致された日本人たちは、その存在さえ確認することができませんでした。  
犯罪者の罪過は長続きしないという人類普遍的な真理があるように、金正日の犯罪は、一九八七年十一月、大韓航空機爆破事件以降、同じ学校の卒業生である金賢姫先輩によって田口八重子さんの存在が初めて明らかになり、その後、私の亡命とともに、ほかの日本人拉致被害者たちの存在が世の中に知られるようになりました。  
しかし、当時は、日本の大多数の国民たちにももちろん、日本政府の高官さえ私の話に否定的であり、その上、北朝鮮政府も私自身を、北朝鮮に存在しない、また韓国政府がでっち上げた、日本の反動がつくり上げた人物として決めつけ、私は、うそをつきまくるにせよ人物としてみられていました。  
そのような中でも、救う会在藤勝日会長と、ここにいらっしゃる西岡先生、そして横田御両親如初めとする拉致被害者家族たちが私を信じてくださり、絶え間なく運動を展開した結果、自分の民族三百万人を飢え死にさせても謝罪の一言もなかった悪魔金正日に認めさせ、謝らせるに至りました。  
しかし、日本政府と国民を代表する日本の総理と日本政府代表団の前で謝るといふ席でさえも、金正日は、拉致の本当の命令者とその実行行について率直に認めます、今この瞬間でもうそを置き、日本政府と国民を愚弄しています、金正日が責を押し通しているうその中の一つは、一九九一年まで私が直接話も交わし、たばこまで分け合って吸ったことがある市川修一さんが一九七九年に死亡したという内容と、やはり私が一九九〇年代ころまで目撃した増元のみずさんが一九八一年に死んだという事です、  
また、田中実さん、加藤久美子さんなど拉致された日本人と、金正日政治軍事大学に出入りしていた寺越武志さん、そして作業員の専門病院である朝鮮労働党九一五病院で目撃したもう一人の日本人女性など、十人の日本人を金正日は認めていません。  
金賢姫の日本語教官であった田口八重子さんは、やはり私たちの学校の先輩である金賢姫が韓国一九九一年当時、恩赦を受け手記を出版するという時期まで確実に生きていたという事実は、金賢姫に射撃を教えた教官、金正日政治軍事大学射撃講座の成教官から、私だけでなく、私の二十五期同期生全員と一緒に聞いた話です。  
私にももちろん、北朝鮮にいたとき、これら日本人たちの名前一つも全く知りませんでした、彼らの顔と特徴などは今の瞬間もはきりと記憶しています、  
私が目撃した日本人たちが拉致された日本人の全部でないことは、学校の教官たちと先輩たちを通じてよく知ることができ、その数は何と三十人余りにもなると聞きました、今この瞬間にも、彼ら拉致された日本人たちは、自分の父母と日本政府と国民を信じて、自分たちが救い出されるのをただけを首を長くして待ち待っています、  
しかし、日本国民であり、日本の子供たちである彼ら拉致された日本人を救い出すべき日本が、今むしろ、北朝鮮工作機関が決心さえすれば、もっと多くの日本人を拉致し、日本に敵対行為をすることができるように、工作資金と数多くの工作装備まで供給してやっていると現実です、  
ここにいらっしゃる国会議員の方々、これを見守っているすべての日本人たちが、北朝鮮によって拉致された日本人被害者たちを自分の息子、娘、兄弟として、本当の肉親として考え、彼らを悪魔の巣窟から助け出すという強い意思を持ち、その悪魔金正日に戦う覚悟がなければ、そういつたかたい覚悟が臨まなければ、決してこの戦いは簡単には終わりません、  
その戦いがまだ弱いために、北朝鮮政府は対日工作機関である清津連絡所を完全に解体させず、今でも存在させており、引き続き日本工作をするために、以前のような工作船ではない新しい工作船を運営しようとしており、今新しい工作船基地を構築しつつあります、  
悪魔との戦いは、今、日本が持っている最も強力な手段である経済制裁で金正日の首を絞めることだと私は確信しており、わずかな動揺もない経済制裁が加えられるとき、金正日はついに日本国民と国家を恐れ、日本に対して真摯な姿勢になると確信しております、

日本の対北朝鮮経済制裁は、金正日政権の脅威になるのであって、金正日政権が一日でも早く終われば、殺人独裁がない人間らしい世の中で暮らすことを希望している北朝鮮の二千三百万住民の大きな望みでもあります、  
実際に、北朝鮮で長く暮らし、韓国に亡命して暮らす七千人以上の日本人も、韓国政府の太陽政策は全く信じられないものであり、これは北朝鮮政府が韓国政府から受けている経済支援というのは、北朝鮮が崩壊しつつあるときに改めてリングを打つような効果を生み出してあり、また、北朝鮮の高官でさえも、韓国もしくは海外に滞在しているときに、韓国政府がなほ北朝鮮に経済支援を行い、北朝鮮政府を生かすような行動をとるのかと口をそろえて言っており、  
日本政府が北朝鮮に経済制裁を行わないということは、北朝鮮による拉致被害者を救済せず、そのままにしておくことを意味しております、  
ここにいらっしゃる国会議員の方は御存じかもしれませんが、韓国に対する北朝鮮の軍の警備というのはかなり、海軍などは初め、相当に厳しいものがあります、最前線の方には、最前線から百五十五マイルぐらいのところに、韓国軍百万人が警備を行うために対峙しているにもかかわらず、北朝鮮は一九六〇年以降、四人余りの韓国人を拉致し、現在も五百人以上はそのまま北朝鮮国内にとめており、  
しかし、日本海周辺では、鉄条網一つない完全にオープンな状態になっていること、そして、日本では金正日さんが認めた十三人以外に拉致されていないと思われていること、全く異なる事態であります、  
このように申し上げますと、恐らく日本の方々のプライを大変に傷つけることになってしまうと思うのですがそれだけでも、北朝鮮の作業員たちが口々に言っていることといえます、韓国に浸透することはかなり難しい、しかしながら、日本に浸透するのは御飯の途中であつとトイレに行つてやるようなものだ、それくらい簡単であると彼らは言っています、  
そのように、日本という国自体をばかにしている、そうした犯罪集団であります北側、北朝鮮に対して経済的に支援を行うなどということは、日本の国民はもちろんのこと、北で一生懸命暮らしている人民たちにとっても間違つたことである、ためにならないことであると私は強調したいと思います、  
以上です、ありがとうございます、(拍手)

**赤城委員長** ありがとうございます、  
以上で参考人の意見の開陳は終わりました、

**赤城委員長** これより参考人に対する質疑に入ります、  
質疑の申し出がありますので、順次これを許します、池坊保子君、  
**池坊委員** 公明党の池坊保子でございます、  
本日は、西岡参考人、安参考人、特に安参考人は昨日韓国よりおいていただいたとのこと、大変有意義なお話を伺うことができました、心より感謝しております、  
時間がございませんで、早速質問に入らせていただきたいと思います、  
六カ国協議は今まさに渦中にございます、今までの経過を考えると、拉致被害者の御家族の皆様、そして日本人も落胆をされているのではないかと懸念しています、  
言ふまでもなく、佐々江日本首席代表は、日朝国交正常化を図るため、核、ミサイル、拉致といった諸懸案が総括的に解決されなければならないと思っております、  
その直後すぐ、会談の焦点を分散させる行動は決して望まれないでほしい、拉致問題を取り上げることと牽制したいと考えています、  
これは韓国ばかりではございません、ロシアのアレンシェーヴ外務次官も、日本との二国間協議で、六者協議の中で拉致問題を取り上げないよう要請しております、朝鮮半島の非核化という主要な問題の解決が決しているなら、今ほかの国々の人たちは、この朝鮮半島の非核化という問題一点しか見詰めることができないのではないかと気がしております、中国の人民日報も、拉致問題を取り上げるとは今批判的です、  
私もは、少しの救いは、私どもの小泉総理が、日本には日本の事情があるのだ、各国とは違うのだ、ここで改めて日本の事情を明言していることではないかと思ひます、  
私は、こういう状況でそれこそ再確認しなければいけない、強く私たちが自分たちの心に言い聞かせなければいけないのは、日本の国というこの主権の問題に關しても、また人権問題からも、私たちはこの拉致被害者救出に対してさらなる強い意思で臨まなければならないのだと思ひます、  
たは私は、目的は一つ、拉致の被害者を救う、だけれども、その方法はたくさんあるのではないかと、今の外交方法を決して批判するわけにはありませんけれども、もっと諸外国のこころをしかりと把握し、その事情を考えながら支持や理解を得ることも必要なのではないかと、

今、安参考人は韓国にお住まいでいらっしゃる、韓国の事情はよくおわかりだと思ひます、韓国は、本当は拉致被害者を抱えている私たちと一緒に悩んでます、そういう意味では、手と手合いながら一緒に協力しなければならぬのに、急にこういうふうな態度が変わつてまいりました、三回の協議のときには、これはアメリカと日本と韓国は歩調を合わせてきたわけですが、今、世論としては、この拉致被害者に対して黙殺をされているのではないかと懸念しております、  
**安参考人(通訳)** お答えをしたいと思いますけれども、私がこの場で六カ国協議についてあれこれ言うということは私の分に過ぎたことであると思ひます、しかしながら、私が考えますに、今、拉致被害者を救うというところについての焦点がぼやかされてい、ぼやかしてきているということを考えますに、六者協議も含めまして、北に対して、北朝鮮に対してほかの国々はちょっと卑屈な態度に出ているのではないかと思ひます、北が欲しいものを与えてしまうような路線に出ているのではないかと懸念しております、  
韓国にも拉致被害者は五百人以上います、韓国にも拉致された人々がたくさんいるのです、しかしながら、そうした韓国が日本政府と歩調を合わせてこれに対応することができないというのはなぜかと思ひます、これを認めるならば、韓国政府はこれまで自国民を保護してこなかったということ認めることになります、それを認めたいという政府の立場もありません、韓国の現政権では北朝鮮を刺激しないという立場を今とつています、

**池坊委員** 西岡参考人に伺いたいと思ひます、  
今の問題に關係いたしますけれども、韓国は、現大統領になってから、これは恣意的に北朝鮮との平和の流れをつくらうとしているのではないかと懸念しております、同時にまた、韓国には歴史認識の違いによる日本の葛藤もあるのではないかと懸念しておりますけれども、その辺についての御意見を伺いたいと思ひます、  
**西岡参考人** 先ほど意見陳述で申し上げましたが、アメリカは日本人と韓国人拉致について明確に悪だという認識を示しています、日本は、自国民の拉致について取り上げていますが、韓国人拉致、そして北朝鮮の人権問題を取り上げていません、そして、韓国、ロシア、中国は、拉致も人権問題も取り上げないという立場です、アメリカが一番孤立しているわけです、韓国や中国が今のような姿勢を続けられるのは、アメリカだけが、第三国であるにもかかわらず、韓国人、日本人拉致、北朝鮮の人権問題まで取り上げているという姿勢だからです、  
ですから、先ほど申し上げましたように、日本も、普通のな人権という観点から韓国人拉致も取り上げてくださいと非難すべきだ、そこをすれば、日本とアメリカが韓国、对中国ということになるんです、それがなければ、日本はもちろん主権の問題では日本人拉致をしますけれども、韓国人拉致まで取り上げたいと思っております、

**池坊委員** 今おっしゃった質問も考慮と考へております、つまりこれは、日本の主権の問題であるとともに、世界、アジア諸国のすべての国民にとつての人権問題だということを高(高)掲げ、国連あるいはアメリカにももっと協力を呼びかけろべきであるというふうに考えます、やはり周辺諸国の理解、協力が不可欠な日本なのか、そのよう理解を得ていくためにはどうしたらいいかというところも考えなければならぬと思ひます、  
この六カ国協議の中で、北朝鮮は、四方向もやられているけれども日本はやはり、もう嫌がらせとしか思えないのですが、そういう態度であります、  
ヒル次官補は、この間、北朝鮮の金外交次官に、日本はあなた方と、拉致問題も解決したならばきちんとした国交正常化ができるのだから、二国間協議をしたらどうかという勧めに対して、助言には感謝するというふうにご答へております、  
そしてまた、この間、自民党の山崎拓前副総裁が、七月十七日にソウルで韓国の鄭東泳統一相と会談されました、その中で鄭統一相は、六月に金総書記と会談したときに、鄭統一相が、日本は核、拉致問題を解決して日朝国交正常化をなし遂げたい考えに変わりたいと日本からのメッセージを伝えたのに対して、金総書記は、確かににお聞きしたいというふうにご答へております、  
この辺のことを考えますと、安参考人は韓国に今いらっしゃるが、その前は北朝鮮で北朝鮮の政府のやり方あるいは外交のやり方を見ていられたと思ひます、この発言等を考えるときにどういう考えられているかということ、今お考えのことがあるかどうかお聞きしたいと思います、

**安参考人(通訳)** まず第一に、北朝鮮にいるときは朝方外交官としての仕事はしてありませんでしたので、北の外交方針についてはここで申し上げることができません、  
しかしながら、今現在の北朝鮮の態度といふことは、北朝鮮の行動のペースになっているのは、日本に対して要求をしている数億人しか出ないのですから、じつは踏んで欲しいが、子供のような態度ではないかと思ひます、  
そしてまた、金正日という人間は、自国民を三百万人餓死させても少しも悔として悔しないような人間であります、そうした人間が拉致問題については日本に対して一応謝罪はしたわけですが、それにもかかわらずドゥルをくれないといって、彼は非常に傷ついていることですよ、

北朝鮮を相手に何かの交渉をするなり話をするというときには、日本が持っている通常の常識ですとか常識ですとかいうものをもって相手に対してはいいけないと思ひます、  
**池坊委員** 今のお話を伺うと、北朝鮮との外交は、交渉は、私たちがも本当に大所高所、いろいろな創意工夫をしなければいけない、知恵を働かせなければいけないということの再確認であったような気がいたします、  
西岡参考人に伺いたいと思ひます、  
今の問題に關係いたしますけれども、経済制裁という問題が出てきてまいります、ただ、今、韓国では二百五十キロワットの電力も提供しようとしている、韓国は、確かに先ほど安参考人がおっしゃるように、韓国のみならず中国もロシアも北朝鮮に甘いんじゃないかという感じがしないわけではあります、  
五月十六日の衆議院予算委員会において小泉総理大臣は、「経済制裁を發動して、この拉致の問題が、今日本が思っているような対応を北朝鮮がするかどうか、またそれが効果的かということと考えると、必ずしもそういう面ばかりではない、」というふうに慎重な姿勢を示されました、

このことは前に西岡参考人は述べいらっしゃいますけれども、再度この問題についてお伺いしたいと思います、  
**西岡参考人** 小泉総理の答弁は、率直に申し上げて、大変危険だと思います、  
なぜならば、昨年の十二月二十四日に細田官房長官が、日本政府の公式見解として、北朝鮮に対して、迅速で誠実な対応をしない、それがなければ厳しい対応をとるとはきりと断言しているわけですが、これは我々が言ったのではないです、家族が言ったのではないです、細田官房長官が日本政府としておっしゃったことです、その前にもその答弁があるならば、五月になってそのようなことをおっしゃるといふことは、日本がこの問題を真剣に考えていないという間違つたメッセージを金正日や国際社会に発することになってしまうという点で、大変危険だと思います、  
先ほど申し上げたように、佐々江局長の発言も、細田官房長官が北朝鮮に対して強く求めると言ったことまでは踏み込んでいない、そのことも危険だと思ひます、  
外交というものは、言うべきことをきちんと書いて、それから後で交渉が始まるものだと話しております、

**池坊委員** 私も、言うべきことをしっかりと書いて、そしてまた相手の意見も聞きながら話し合いを行う、これは、外交は国と国ですが、人と人のかかわりでも同じですが、そういう毅然とした姿勢をこれから日本に外交においても人と人のつき合いにおいてもしっかりと持つていかなければならぬのではないかと懸念しております、  
今、ロシア、中国、韓国に対して、やはり私は、アメリカはもとよりですけれども、協力、支持を得ることが大切ではないかと思うのです、少なくともこの問題を解決するときの一つのいい要因になるのではないかと懸念しておりますけれども、どういう方法があるか、そのことについて安参考人に伺いたいと思ひます、(発言する者あり)

**安参考人(通訳)** 私が、日本が何をしたいかお申し上げるとご自身がなんなんですけれども、やはり日本というのは、現在、非常に北朝鮮、金正日に対して強硬な立場をとっている、また、それを北朝鮮、金正日に対して何かを受け入れるようなニュアンスを含めて言っていることも事実だと思います、ですから、北朝鮮、金正日が逆に、日本の顔色をうかがいながら、日本というのを一貫した意見がないために、こう言えばもしもしたる通用するのではないかといったすきを日本が見せているのではないかと懸念しております、  
ですから、日本が声一つにして、世界の悪である金正日と対峙するならば、日本を金正日は怖がらせてしまう、また、世界も日本に譲歩せよといったようなことは言わなくなると思ひます、

**池坊委員** 同じ質問を西岡参考人に伺いたいと思ひます、  
**西岡参考人** 韓国は今、実は政治的、思想的に内戦状態である、真二つに割れている、南方三角同盟、日本韓国の同盟を推すべきという勢力と、そこから離脱して親金正日、親中の方向に行こうとする勢力が、激しい思想戦、政治戦を今戦っている、  
その中で、普通のな人権、民主主義、海洋国家として、我々のパートナーは、日本韓三角同盟をうらうとする勢力であり、その人たちは日本が経済制裁を發動することに賛成しています、そしてその人たちは、韓国人拉致問題、日本人拉致問題、両方取り上げています、北朝鮮の人権問題も取り上げています、  
日本の歴史問題に関しては、歴史観が一致しないのは当たり前だ、国が違えば歴史観は違つて当たり前だ、教科書が一致しないのは当たり前だと言っています、韓国は、今自由民主主義国家です、中国とは違ひます、ですか





日本が警備を強化している、三号庁舎のみならず、北朝鮮の保健部とか保健司令部などを通じても日本に入り込もうとしています。

**渡辺(周)委員** 保健司令部から入り込もうとしているのは、これは海上で来るのですか、それともどこかの国を経由して来るのですか、例えば覚せい剤ですね、麻薬。

**安参事(通訳)** 最近では北朝鮮の船舶に対する警備が非常に強まっているので、ロシアのマフィアと組んで、ロシアを経由して北海道を通じて入ってくるというふうに入っております。

**渡辺(周)委員** 非常にそれはジョッキンクな態度で、かなり日本も海上を警備しておりますが、そうなら、新しいまたこれは判断を、新たなルートとして考えて、重大にこれは考えなければいけないと思います。

それからもう一つ、にせれならですが、大変厳密ににせれが韓国の国内で出ている、例えばドルです。これなどは北朝鮮の技術でそまで精密なものができるのだから、どこかの国の技術支援があるのではないかとと思いますが、その点についてはいかがですか。

**安参事(通訳)** 私がどの国がどういうことを正確に把握することはできませんが、北朝鮮が非常ににせれを上手にすることは把握しております。

**渡辺(周)委員** ぜひこの点については、また何かわかっていれば改めて教えていただきたいと思いますが、

時間もございまして、あと二点お尋ねをしたいと思いますが、先日、先般日本に帰国をした平島さんという方が、日本に帰ってこられて日常生活をしておりますが、突然思い立ったように北朝鮮に中国経由で帰ってしまいました、こういうことを考えますと、だからこれはメッセージを送って、つまり、朝鮮総連が平島さんにたいび重なるメッセージを送ることによって、結局帰国させるを得なかったんじゃないか、これは北の謀略ではないかと思いますが、このことについて、このニュースを知っていましたら御感想を聞かせていただけますか。

**安参事(通訳)** はい、そのニュースについては正確に知っております。また、私は個人的に少し被害者でもあります。

北朝鮮の北部の地域の方は、日本と直接電話通話されます。そういった電話を通して、日本にいる脱北者たちに韓城のような促しを十分に行うことができます。

**渡辺(周)委員** つまり、そうした人が次なるターゲットをねらって、平島さんが持っているであろう情報をもとに、また北朝鮮への帰国を促すという危険性が高いというふうに考えてよろしいですね。

**安参事(通訳)** まず、平島さんが北朝鮮に行って英雄のように扱われるわけですから、ほかの人たちも誘惑を感じると思います。また、平島さんは日本にだれだれがいたという情報を持っているわけですから、北朝鮮に子供を置いてきた人たちはやはり恐怖を感じていると思います。

**渡辺(周)委員** もう時間がありません。

最後にもう一度安明進さんに伺いたいと思いますが、今回の六カ国協議でまさに露骨な拉致外しを、北朝鮮を含めた国々、アメリカ以外の国々へはしています。

ここでやはり我が国が経済制裁を發動して、あるいは先ほど申し上げた厳しい北への現行の外圧を強化することによって、これは我が国独自で本当に進んでいかなければならない。

その点につきまして、最後に我が国の国民に対してメッセージを送っていただければ、それを伺いまして質問を終わりたいと思います。

**安参事(通訳)** 北朝鮮に対する経済制裁というのは、悪魔金正日への脅威であって、二千万人の北朝鮮住民を生かす道であることをどうぞ正しく御判断ください。

**渡辺(周)委員** ありがとうございます。

**赤城委員** 長 次、長島昭久君。

**長島委員** 民主党の長島昭久です。どうぞよろしくお願ひいたします。

まず冒頭、お二人の参事人、西岡参事人そして安参事人、本当に困難な環境の中で、それぞれ国籍は異なっておられますけれども、これまで国家と真っ正面から闘ってこられたお二人の勇氣に、心から敬意とそして感謝を申し上げたいというふうに思います。

また、きょう、お慕い中傍聴に来ていただきまして横田早紀江さん初め傍聴の皆さん、本当に御苦勞までございます。

時間がございまして、核心からずばり御質問させていただきたいと思いますが、

調査室でつづけていただきました参考資料の中で、西岡参事人が安明進参事人から伺った、こういうことでお話をされています。七六年ごろ、金正日が、作業員現地化の教育のために現地人を連れてこい、こういう命令を下して、以後拉致が本格化したというふうにされている。最初はむやみやたらに連れてきたんだけれども、精神的、思想的理由で使えない人もあり、そこで日本国内の協力者に頼んで人の選定してもらった。このように西岡参事人がおっしゃっておられます。

安参事人にご質問したいと思っておりますけれども、ここで言う日本国内の協力者というのはいかなる人物、いかなる組織であるのか、そして、人の選定というのはどのような形で行われたのか、この二点について伺いたいと思います。

**安参事(通訳)** 日本において北に協力活動を行うことのできる者という、まずは作業員、それからまた、総連に属する人の中で、北に家族、親戚がいるために人質をとられた形になって、北の命令を受けたら断れないという人々がそうした活動を行うこともあり得ます。それからまた、作業員の中にも、自分で実際に何かの行動に出るのではなく、日本国内の犯罪者などに金を渡して何かをさせるということもあるであろうと私は確信をしています。

それから、拉致の対象者についてなんですけれども、北側がこれからも日本国内で拉致を続けていこうとするならば、余り騒ぎが大きくならないような人を選ぶと思います。その人選、どのような対象者を選ぶかということの方針が変わった当時、私は現場にいたわけではありませんが確実にわかまされなくても、当然考えることは、親戚縁者などのない人、つまり、いなくなっても余り一生懸命探す人がないような人、それから目立たないような性格でひっそりと暮らしているような人であろうと思われます。

**長島委員** 西岡参事人、何か補足することはありますか。

**西岡参事人** 拉致には、ですから二つのタイプがある。ゴムボートが海岸にあってすぐ乗せられていったのはむやみやたらに選ばれたケースではないが、そして海岸以外のところからおびき出されたケースは協力者がやったケースではないが、そのように私は見えております。

**長島委員** 先ほど、清津の工作機関の連絡所がまだ解体されていない、現存している、こういうお話がありましたけれども、今もなお拉致行為というのは日本国内で継続され、しかもそれに対して協力をしている日本国内にいる人々も引き続き現存しているのか、その点の観測を西岡さんにぜひお聞きしたいと思います。

**西岡参事人** 韓国に侵入するため、あるいは海外で韓国に対する工作をするために拉致をしていたわけですが、韓国の状況が先ほど来議論してきたような状況なので日本経由の比重が低くなっているということも考え、日本に対する、麻薬とか覚せい剤、資金や装備を動かすとか、あるいは在日米軍基地や自衛隊の監視とすることはあります。拉致を止めているかどうかについては、今もできる議論にあると思いますが、私は、最近では余りないのではないかと判断しています。

**長島委員** 今、もちろん拉致の問題は大変深刻であります。そして、私たちは韓国の拉致被害者の方々やはり連携をとっていかなければならない、こう思っているわけですが、韓国国内、先ほど来お話がありましたように、大変な親北の傾向、先ほどの西岡参事人の言葉をかきりと、政治的、思想的に真っ二つに分かれている、こういうこと、

安参事人にお伺いしたいんですけれども、先ほど来西岡参事人がおっしゃっていた、真っ二つに分かれていて、ただし保守派を中心に、かなりそういう今の盧武鉉政権に対してフラストレーションを感じている人たちがたくさん韓国にもおられる、そういう人々と私たち日本政府は、あるいは日本の心ある人たちは連携をすべきだ、私も全く同意見なんです、同時に、先ほど質問にお答えする中で、韓国の政界に対する工作、あるいは政官界に対する工作と言ってもいいと思うんですけれども、そういう工作もかなりの密度で進行している。

一説には、もはや保守派も何もなく、韓国の国民はもうあちら側に行っちゃった。もう我々が連携する相手もほとんどいないんじゃないかという意見も聞かれるんですけども、韓国の国内と日本とを行ったり来たりされている安参事人の実感として、まだまだ韓国の国民は捨てたものじゃないという面、そんな観測をお持ちの方のか、率直なところをお聞きしたいと思います。

**安参事(通訳)** 今現在、韓国の国民は北の正体について知り始めている、しっかりと知識を持ち始めているという段階にあるんですけども、むしろ一部の政治家の方がその反対方向に走っているという状況です。そうしたことが太陽政策である、北をソフトランディングさせる方向であるというふうに韓国政府は言っているんです。

しかしそれは、実際には悪魔を生き延びさせるということに直結することでありまして、北朝鮮二千三百万の人民に苦しみをなめさせ続けることだと思えます。そしてまた、それは、韓国が莫大な国防費をいつまでもいつまでも使い続けなければならないということでもあります。

そうした北側の実情というものを韓国国民に正確に知らせる役割を担うべき韓国のマスコミ、放送局などのトップの方にも、実は左傾化した人々が非常に多いんです。ですから、今は韓国国民に真相を知らせる方法さえなくなってしまう。そうしたマスコミの中でも比較的現実を伝えようと努力している朝鮮日報、東亜日報などのマスコミに対して、露骨な圧迫が加えられるような状況です。

**長島委員** 韓国の国内は大変深刻な状況だということになっておりますが、その韓国とアメリカとか、やはり、先ほど南方三国同盟というお話がありました、核、拉致、ミサイル、この三つを包括的に解決するためには、この三国の連携がどうしても必要だと思うんですけどね。

昔、九八年、九九年、元防衛長官だったベリーさんを中心にベリー・プロセスというのがあったと思うんですが、あれは基本的に核やミサイルをターゲットにしていたけれども、やはりこの拉致の問題、人権の問題で日米韓が連携をとっていく必要がこれから出てくるというふうに入りますが、そこで一つかぎを握るのが中国の動向だと思うんですけどね。

ちょっと中朝両国の脱北者の状況についてお尋ねしたいというふうに思うんですが、まず一つ、事実の問題として、把握をしておられればお答えいただきたいんですが、

国境付近に、三十九と呼ばれているぐらいの脱北者が中朝国境におられるというふうな数字がおりますけれども、今、その脱北者の数が千数百のぐらいいないのか、それで、その方たちの数というのは毎年ふえてきていると言われておりますけれども、実際はどのくらい、それから、その方たちの生活環境、衛生状況といったものはどんな状況なのか、もし御存じであれば安参事人にお答えいただきたいと思いますが、

**安参事(通訳)** 北朝鮮を脱出して、今現在中国に入っている人が何人いるかということでは正確にはわかりませんが、彼らは隠れて暮らしている人々です。しかしながら、昨年十一月に金正日にまで上がった報告書があるんですけども、会寧という場所の場合、それによりますと、女性はみんな中国の方々に逃げたんですけど、だから電信柱と男がけが残っているというような報告が金正日に昨年上がっています。

それからまた、北朝鮮の警察関連の団体、保健部などか、住民のうちでの行方不明者が七万人に上っているというようレポートを作成したということもありますけれども、正確な数はわかりません。

**長島委員** その数はもちろんとして、相当悲惨な生活状況にあるというふうな言われております。あの地域はたが朝鮮族の人たちがたくさん住んでおられる。その朝鮮族の皆さんと、恐らく韓国の国民の方々も相当程度連絡があるかと思うんですけどね、その状況に対して、韓国の国民がいれば、人権の観点から立ち上がっていくというふうな、そういう傾向は実際あるのかどうか、これが一つ。

もう一つ、最後に伺いたいのは、これは西岡参事人にお伺いしますが、中国政界が、結局、脱北、命がけて自由を求めた出た方々を不法滞在者ということでそのまま強制送還しているわけですが、これは中国も批准をしている難民条約にもともった行為だということに思っているんです。その辺のところの西岡参事人の解決策といいますが、お考えを最後に伺いたいというふうに思います。

まず、安参事人から。

**安参事(通訳)** お話になりましたように、脱北者がどれほど悲惨な生活をしているか、直接自分の目見た韓国人は、彼らのために何かをしようと考えます。しかしながら、公的には、韓国の政府機関が脱北者をもうこれ以上受け入れたくないという立場になってきています。

**西岡参事人** 我々は、北朝鮮は制裁をして圧力を加える対象だと長島先生も先ほどおっしゃいましたけれども、脱北者の問題については北京政府も圧力を加える対象だと思います。彼らは、自国の人権問題があるので、北朝鮮の人権問題に触れられたくないと思われている。

これは体制の問題ですから、自由民主国家でない独裁体制に対しては、やはり圧力を加えて、人権を守ると強く言うべきだし、人権を守らない国が国連の安保理理事会の常任理事国でいいのか、我々は日本と交代したらい、そういうことで言うべきではないかと私は思っています。

**長島委員** どうもありがとうございます。

**赤城委員** 長 次、菊田まきこ君。

**菊田委員** 民主党の菊田まきこでございます。

本日は、西岡先生、そしてはるる韓国からお越しをいただきました安明進さん、御二人から意見陳述をいただきまして、まことにありがとうございます。

私の出身は新潟県であります。新潟は、拉致被害者の現場となり、万景峰号が入港するところでもあります。横田めぐみさん、曾我ひとみさんのお母さんの曾我ミヨシさんは、拉致されたまま、いまだ帰国できずにおります。特定失踪者として認定をされた横田と曾我さん、大沢孝司さん、後藤久二さんもお新潟県民です。

今、新潟県民の救いには、拉致問題の解決を求める大きな横断幕が掲げられました。そして、来月十日には、北朝鮮への経済制裁を求め一万人国民大集会が新潟市で開催される予定で、自民党、公明党、そして私たち民主党も、救う会新潟の皆さんと連携をしながら、ただいま準備を進めているところでございます。

私たち新潟県民は、県知事をお願いして、横田めぐみさんたちの救出と拉致問題の完全解決のため力強く行動していることをぜひここにお集まりの皆様方に御理解をいただき、さらなる御支援を冒頭お願い申し上げます。

それでは、時間が限られておりますので、私の質問は、万景峰号について伺いたいと思います。

ちょうど、きょうの朝八時三十九分に、万景峰号が新潟港へ入港いたしました。これでことしになりまして八回目の入港となります。

私は、まず安明進さんにお伺いをします。万景峰号は、表向きは貨客船だとされていますが、金正日政権の拉致などを行う工作機関とも関係があるのではないかと一部では言われております。この船は北朝鮮にとって一体どういう位置づけの船なのか、まずお聞きさせていただきたいと思います。

**安参事(通訳)** 今お話のあった万景峰号というのは、前の三池淵という船があったんですけども、それと同じ位置づけでありまして、もともと統一戦線部、工作部に属する船です。万景峰号の船長というのは、一応、船長という名前の人はいませんが、その人が実際の船長というわけです。そのバックで指揮をする指導船長というのがいるんですけども、それは戦線部、統一戦線部の方の人間です。

**菊田委員** ただいま大変衝撃的な発言がございましたけれども、この万景峰号に乗って、その船長、表向きの船長と実はそうではない船長がいるということ、それから、統一戦線部の人間ということは、先ほどか質疑の中に三号庁舎という発言がありました、これはまさに命令者であり、指揮をとり、そして責任者であるという三号庁舎の所属であるということと理解しているんじゃないでしょうか。そして、それがなぜ新潟港に入った万景峰号の事実、現状なのでしょうか、もう一度確認させてください。

**安参事(通訳)** はい、確かに三号庁舎の参謀部が日本に入ってきた船を指示しています。

**菊田委員** もし差し支えなければ、その根拠をお示しいただけますでしょうか。

**安参事(通訳)** 三号庁舎に所属している船であるということが私が確信している理由は、私が日本で、ある協力者の協力のもとに、万景峰号に乗っている人間の写真を見て確信を持ちました。私が出した金正日政治軍事大学の第十五期の先輩が、南浦連船所というところにもともとはい北朝鮮の、その船に乗っています。

それからまた、万景峰号が北朝鮮の統一戦線部に所属している船舶であるということについては、韓国の情報部も資料を持っています。これについては、だれもこれを否定することはできないと思います。総連の人だっこれにノーとは言わないで、

**菊田委員** 万景峰号に乗っていた人が、安明進さんが作業員をやっていたこと、その先陣の作業員が乗っていた、乗っているということですね。大変驚きました。

それでは、貨客船というのは実は表の顔で、これは言わなくても、作業員が乗っている工作船と言うことができるのではないのでしょうか。この万景峰号は、どんな目的を持ち、またどのような任務で来ていると考えられますか。そして八回目の入港というふうに言いましたが、年に二十回から三十回の割合で新潟には入港している現状でございます。お答えいただきたいと思いますが、

**安参事(通訳)** 貨客船の教材となっていて、人や貨物を運ぶということになります。その背後には悪意が隠されています。いまだに三号庁舎に対して日本から多くの資金を運んでいっています。工作用の資金となるものを、それからまた、作業員に対する日活動の教材となる日本の本などを持っていきます。しかしながら、日本の新聞や雑誌などに出ている記事、情報を総合して、これから先、日本に対してどのような戦略をとるべきかという方針を立てるための情報なども運んでいます。

**菊田委員** あなたは、万景峰号が北朝鮮と日本の間をこのように自由に往來していることを、そしてまた、これから往來することなどどのように考えますか。

**安参事(通訳)** 北朝鮮の工作機関所属の船が自由に日本に入ってくる。北朝鮮の参謀部人間が日本に入ってくる、ということについては、私は、どうしてそんなことが起こり得るのか理解できません。日本は、北朝鮮を相手に交渉を行おうという立場で、実際に交渉も行っているのに、今現在、こういうふうな状況であるならば、最初から交渉にならない、負ける交渉ではないでしょうか。

私、個人的に率直に申しますと、悪を生き残らせる行為であると考えます。

**菊田委員** それから、先ほど先議議員の質問の中に、にせれとか覚せい剤、麻薬というお話がありましたけれども、こうしたのがこの万景峰号に搭載をされて運び込まれているということがあるのかないのか、お聞きをさせていただきたいと思います。

**安参事(通訳)** 今現在は、万景峰号が日本国内の秘密な、厳しい取り締まりを受けておられる、監視を受けておりますので、そうしたものをこれに載せるようなものはやはりないと思います。もちろん、過去においては万景峰号ににせれや覚せい剤が載せられていたという直接的な証拠はありません。しかしながら、日本に入ってきている作業員などを通してそういうことがあったであろうということがあります。作業員の交換など、人員交代などはしていたと思います。

**菊田委員** ただいま作業員の交換という話がありましたけれども、もう少し詳しくお話しいただけますでしょうか。

**安参事(通訳)** 船舶が入港中、にせれや覚せい剤を運ぶという作業員が乗って入ってきて、潜水服を着た船の下に潜りこめて、それで日本にももともといた作業員と入れかわるという方法もあります。そしてまた、今よりも前、昔はもっとよく取り締まりが厳格で、二十四時間の自由時間が船員にも許されていたので、自由に入れかわるということもありました。

**菊田委員** 私の質問の時間が参りましたので、これで質問を終わらせていただきますけれども、大変ジョッキンクな発言、しかし安さんから具体的にお話をいただきました。大変ありがとうございます。かつて、この新潟からこの万景峰号に乗って、地上の楽園と言われた北朝鮮に多くの新潟県民が渡っていったわけでございます。しかし、本当にそこに渡った人たちが暮らすことができかどうか、それは今を見ればすべてがわかるわけでございます。また私たちが今県民を挙げて横田めぐみさんの救出のために一生懸命活動しておりますけれども、その同じ新潟で、このような行為を見逃さずようなことを平然と続けていってよいのかどうか、私は、改めて政府に対して、しっかりと経済制裁を行い、また万景峰号の入港拒否を訴えてまいりたいと思います。

きょうは、大変貴重な御意見をいただきましてありがとうございます。これで質問を終わります。

**赤城委員** 長 次、赤城政賢君。

**赤城委員** 日本共産党の赤城政賢でございます。

安参事人、それから西岡参事人、きょうは本当に御苦勞さまで。

私、最初に安参考人にお伺いいたしますが、私たちは、拉致問題において、北朝鮮政府の特殊機関の調査への介入が全容解明の重大な障害となっているというのを繰り返し指摘をまいりました。安参考人は、金正日政治軍事大学で特殊工作員として教育訓練を受けてこられたわけですが、その北朝鮮の特殊機関、これはどういうものなのか、そして現在の日朝間の拉致問題解決の交渉についてどんな影響を与えているのか、詳しく説明いただけたらと思います。

**安参考人(通訳)** 工作機関と言われている三号庁舎というのは、北朝鮮で最も莫大な予算を使い込んでいる機関であります。そして、私が卒業した金正日政治軍事大学というのはスパイ養成学校でありまして、日本の脅威となる、また国際社会で糾弾しているテロを支援することができる人々を数千人と養成している機関であります。

そして、先ほどの御質問はどんな機関かという御質問だったと思うんですが、余りいい例ではないんですけども、私の能力をもってして、例えば手元に一万円があり、そして日本のスーパーマーケットに入ったとします。スーパーマーケットと薬局に入れば、あらゆる工作に必要なものをすべて買い込むことができますし、爆弾もつくることができます。

そして、爆弾をつくった後に、それをどの装置に入れたらより効果的に破壊力を増すか、どのように仕掛けたらいいかということも十分承知しておりますので、私が本当に決心さえすれば、死傷者をたくさん出すようなこともできます。しかし、私はそれを悪いことだ、悪だと考えているので、決してそういうことはいたしません。そうした能力を持った者が数千人と日本に入国して来た場合、また悪いもくろみを持って来た場合どのようなことが起こるか、想像できます。

しかし、そういった人間が二人、韓国に侵入したときに、韓国は三十万人の大軍をもってして三カ月捜したにもかかわらず、最終的には見つけることができませんでした。そういった同じ出来事が日本で起きた場合、日本がいかに不安に陥り、経済損失が大きいということが容易に想像できます。

**赤城委員** 今特殊機関についての御説明があったわけですが、それで、現在、拉致問題について日朝間で交渉が進められているわけですが、その拉致問題についての交渉に当たって、今、安参考人が御説明された特殊機関、これはどんな影響を与えているとお考えですか。

**安参考人(通訳)** 全く残念だと思いますが、もどかしいというのは、北朝鮮の拉致問題の交渉の主体というのは北の外交部ではあるわけなんですけれども、でも、実際には工作部署があり、そこで行ってたわけなんです。ですから、本来なら彼らとその工作をしたということ認めるのが筋だと思うんですけども、そういうことはあり得ないと思います。彼らが自分たちの工作部に損害になるようなことをするのは絶対思えません。

**赤城委員** 今、交渉に当たっている外交部というお話もありましたが、そこで、これは安参考人、それから西岡参考人、お二人に伺いたいんですが、この拉致問題の交渉を進めていく上で、私たちは、北朝鮮側の交渉担当者を、いわば特殊機関にも真相解明のメスを入れることのできる十分な権限と責任を持った人物にかえて、交渉の質を抜本的に強化するということを日本政府は強く求めていくべきである、このように考えているわけですが、お二人の参考人はどういう御意見でしょうか。

**西岡参考人** その共産党の主張は、金正日を政権から外せという主張とイコールだと思います。金正日が三号庁舎の責任者ですから、金正日も査察できる人間が個人独裁国家の北朝鮮にはいないということで、御意見は、論理としては正しいと思いますけれども、つまり、それはアメリカのブッシュ政権よりもっと強い反金正日的な意見だと思っています。

**安参考人(通訳)** 私のよう、工作機関で働きながらも自由世界主義のことをよく知っていて、金正日が悪だということをよく知っている先輩、後輩が北朝鮮にはまだ数千人います。ですから、いつかそのうちの誰かが金正日政権を打倒してくれるのではないかと信じております。

**赤城委員** 時間が参りましたけれども、私たちはその拉致問題も対話を通じて、交渉を通じて、粘り強く進めていくべき、そして両国間には日朝平壤宣言もあるわけですから、今後も対話による解決、そして交渉の障害になっているものを取り除くという形で、障害を克服していくという形で、粘り強く進めていきたいということを申し上げまして、質問を終わります。

**赤城委員長** 以上をもちまして参考人に対する質疑は終了いたしました。

この際、一言ごあいさつ申し上げます。

参考人各位におかれましては、貴重な御意見を述べいただき、まことにありがとうございました。委員会を代表して厚く御礼申し上げます。

次回は、公報をもってお知らせすることとし、本日は、これにて散会いたします。

午後零時三十一分散会

[このページのトップに戻る](#)